

おとずれ

(発行者)富士吉田カトリック教会
(住所)〒403-0005
山梨県富士吉田市上吉田3-5-7
(TEL)0555-22-3199
(FAX)0555-25-7002

2025年12月第520号 ホームページ <http://www.fgo.jp/~catholic/index.html>

飾り付けられたモミの木

主任司祭 千葉俊一



この時期になると、あちらこちらの店舗内にクリスマスツリーが飾られているのを目にします。意外にも少なからぬクリスチャンが「クリスマスツリーは本来キリスト教とは無縁の世俗のものだ」と考えているようです。本当にそうでしょうか。

神学者オスカー・クルマンによれば、クリスマスツリーの起源は中世西欧のドイツ語圏における教会行事にあります。12月24日に聖堂の

正面玄関の前で行われた失楽園の劇がそれです。舞台には楽園追放の原因となった果実をつけた「木」が立てられました。創世記には善惡の知識の木が具体的にどのようなものであるか記されていないので、地域ごとにその土地の樹木が使われました。ドイツ語圏ではリンゴの木が使われ、結果としてリンゴが善惡の知識の木の実として定着しました。しかし12月に花の咲いているリンゴの木を見つけるのは困難だったので、常緑樹のモミが自然と使われるようになりました。その枝が古くより冬至祭の飾りとして用いられていたことも関係したのでしょう。人々はモミの木にリンゴを1個ないし数個ぶらさげました。次第にホスチアも付けられるようになり(これはのちにクッキーに代わる)、また金メッキを施した薄い金属板も飾されました。これは占星術の学者たちの幼子への贈り物を意味するでしょう。最後には枝にろうそくが付けられるようになります。

こうして飾り付けられたモミの木は、アダムの罪が聖なる夜に神の子の受肉(降誕)によって贖われたのだという救いのメッセージを発するアイテムとなりました。善惡の知識の木の実は、やはり創世記で言及される命の木の実と同一視され、「木」は墮罪をもたらしたものであるとともに、救いをもたらすものと受け止められ、受難の十字架とも結びつけられました。人に死をもたらしたリンゴ=善惡の知識の木の実に対して、人を神のいのちに与らせるホスチア=キリストの聖体が示され、枝で輝くろうそくはヨハネ福音書冒頭の言葉をわたしたちに告げています:「光は暗闇の中で輝いている」(1章5節)。

旧約・新約全聖書のメッセージをいわば圧縮し視覚化してくれているクリスマスツリーを信仰者の眼でみようではありませんか。

(参考文献:O・クルマン『クリスマスの起源』教文館、1996年)

召命を支える私たちの務め：一粒会大会を振り返って

佐々木アグネス綾子

10月13日、箱根の函嶺白百合学園で第57回横浜教区一粒会大会が開催されました。神奈川、静岡、山梨、長野の4県に広がる横浜教区16地区から、総勢821名(司教2名、司祭43名を含む)が集まりました。「私たちは神の民、イエスさまについていこう」というテーマを掲げ、カトリック信者として果たすべき役割を学び、司祭職への召命のために熱心に祈る、祝福に満ちたひとときとなりました。

大会がはじまり、大阪高松大司教区補佐司教の酒井司教様の講話を拝聴しました。司教はユーモアあふれる語り口で聴衆を魅了していました。最初の講話で、司祭というものは偉大な業と奇跡を行うが、その中でも特別なものは、ごミサの中でご聖体をイエス・キリストの真の体と血に変化させることだと説明されました。酒井司教様は、共産主義の迫害の中で殉教した少女の話を次のように語りました：

「ある共産主義国で、兵士たちがカトリック教会を襲撃し、司祭を逮捕し、聖別されたご聖体を床に投げ捨てました。司祭館に監禁されていた司祭は、若いカトリック教徒の少女が毎日教会に忍び込むのを目撃しました。少女は毎日祈りを捧げ、頭を下げ、床から聖体を一つ舌で受け取りました(敬意を表し、ご聖体には手で触れませんでした)。少女は32日間(ご聖体の数と同じ)毎日教会に通い続けました。しかし最後の聖体を受け取った後、兵隊に発見され、銃撃されて殺害されてしまいました。」

酒井司教様による2つ目の講話では、主の祈り、アヴェ・マリアの祈り、そして栄唱に焦点を当て、カトリック信者の「責任」についても言及しました。「私たち信徒が神の救いのわざにあずかるために、司祭の導きは欠かせないものです。司祭の召命と聖性のために祈ることは、すべての信徒の務めです。」講話の要点として挙げられたのは、1.自分がどう変わるべきかを考える、2.今日から自分ができることをする、という2つの点でした。「自らの教会の中で15分、司祭のために祈る。忙しい司祭のために祈ることができるのであれば、死ぬまで祈ることを決心するなら自分はもちろん、他の人々を変えることができるでしょう。」と今、懸命に神に仕えて働く司祭の方々、迫害の中にいても勇敢に御言葉を教えていたり、そしてこれから新たに召命を受けて司祭になる道を選ぶ方々のために祈る方法を教えてくださいました。そして、嫌いな人のためにも熱心に祈ることを教えました。主の祈りの中で「私たちは赦します」と言うとき、神に自分の罪を赦してもらうためには、まず他者を赦さなければならないのです。

昼食休憩中に参加者に講演の中で最も印象に残った部分を尋ねたところ、多くの方が司教様の二つの講話の冒頭で語られた次の言葉を挙げました。

「本当に司祭の召し出しを願うなら、まず自分の召し出しを再確認することが大切です。神からいただいた自分の召し出しを忠実に生きることで、祈りはより力強くなり、きかれます。」

個人的には、ステージ上で手話通訳の方がいらっしゃったことに大変驚きました。実は私も今年の3月から手話奉仕者のコースを受講しています。「ボランティアに役立てば」と軽い気持ちで始めた学びでしたが、この大会を通して、手話が福音を伝えるための尊い奉仕となることを新たに知ることができました。ごミサの閉祭の歌の間、子どもたちが前に並び、「アーメン、ハレルヤ」を手話で歌っていました。彼らの熱意は、聖霊の働きが若い世代にも確かに存在していることを示していました。

ごミサは梅村司教様の司式のもと、今年叙階されたルカ枇杷晃平神父様が説教を務められました。枇杷神父様は、「私たちはそれぞれに弱さや闇を抱えていますが、イエス様はそこにいて、私たちを光へと

導いてくださいます」と教えてくださいました。神学生時代、そして叙階後も、迷いや困難の時期があったにもかかわらず、教会の信徒の方々が彼を支え、神に仕える力を与えてくれたことを語られました。

大会では現在横浜教区に 7 名の司祭志願者がいることも紹介されました。この方々が神の導きのうちに召命の道を確かに歩まれるよう、横浜教区の皆様と共に祈っていきましょう。



閉祭の前に、梅村司教様は出席された司祭の方々の紹介をしてくださいました。日本をはじめ、韓国、バングラデシュなど、さまざまな国から奉仕に来られている神父様方のお名前が紹介され、改めてカトリック教会が国籍や言語を超えて一つの信仰共同体であることを感じました。その中でも千葉神父様については、特に「とてもお忙しく働いておられる」と強調しておられました。私たちの共同体のために日々多くの務めを担っておられる主任司祭を、皆さんと共に祈りをおさげし、支えてまいりたいと思います。福音は、私たち一人ひとりのあかしを通して伝えられています。今回の大会を通して、司祭方の歩みを知ることが、新しい召命の芽生えにもつながる大きな励ましとなることを、私たちは実際に目にすことができました。

ダルク創立40周年記念フォーラム テーマ“ダルクのこれから”～原点と未来に向けて～

10月27日、浅草公会堂にてダルク創立40周年記念

フォーラムが開催された。前半では、創立者・近藤氏の歩みが紹介され、全国各地から集まった支援者やダルクスタッフが、40年間の活動の軌跡を語った。

午後には、沖縄ダルクによる琉球太鼓の演奏が披露され、その力強いパフォーマンスに会場から大きな拍手が送られた。

現在、法規制の対象外となる薬物使用や若年層の使用増加など、依存症をめぐる状況は大きく変化している。課題が多様化するなかで、近藤氏をはじめ多くの関係者が築き上げてきた「ダルク」という居場所を、今後も依存症の当事者のために継続していく必要性が、登壇者の発言から強く示された。



“やめたいと思う願望があればダルクに来ることができる、当事者が当事者を支え合う”



<富士五湖ダルク施設長・篠原さんより>

ダルクは今年、発足から40周年を迎えました。今回のフォーラムへの感謝と追悼の思いが、さまざまな方々から語られました。また、新しい出会いもあり、“つながり”的大切さを改めて感じる一日となりました。富士五湖ダルクは2009年に開設され、私は2015年より着任しました。今日まで活動を続けてこられたのは、地域の皆さんに支えていただいたおかげです。これからも、困難を抱える薬物依存症の方々が社会復帰へと歩み出せるよう、寄り添いながら取り組んでまいります。

11月教会委員会議事録

2025年11月8日

参加者:千葉神父・新井・江守・大野・小林・佐々木(成)・佐々木(綾)・福永・和田
オブザーバー:ステファン・ザビエル

1. 今後の行事予定

- *12月14日待降節黙想会 指導司祭:牧山善彦神父
 - ・講話の後、ゆるしの秘跡を行う。子供のゆるしの秘跡も行う。
 - ・カレーを新井さん、江守さんで作っておく。神父様が終わられたら、ご一緒に茶話会。
- *2026年3月8日あるいは22日 四旬節黙想会を予定。
 - ・指導司祭:調布サレジオ神学院のどなたかが担当。
- *2026年4月23日(木)午前中 アメリカ巡礼団が当教会を訪問しミサをする。約30人、司教もいる。

2. 行事企画グループ

- *感謝と喜びの集いについて
 - ・場所:晴れの日 幼稚園園庭/信徒館 雨の日 幼稚園2階(教室には入らない)
 - ・時間 10:50~12:30
 - ・寄付先 国連WFP、明泉会インドスパンサーシッププログラム、神の愛の宣教者会、くるみ福祉作業所(忍野)
 - ・カメラマン ホアさん
 - ・駐車場は合同庁舎(信徒用)および幼稚園(幼稚園の保護者用) 誘導係 山田豊久さんと富士五湖ダルクのスタッフにお願いする。
 - ・司会者 総合司会:佐々木成子さん ビンゴ担当:菅原るみ子さん
 - ・協賛団体/会社 NPO法人 山梨ライフサポート(タオルなど)、餃子工房(餃子300個)、暮らしの香りボディクリーム
 - ・富士五湖ダルク 焼きそば
 - ・ビンゴの景品が昨年はどのようなものだったか、江守さんからレシート等調べて佐々木さんに送る。
 - ・スタートの時間をはっきりする。
 - ・ビンゴのスタートは11:30
 - ・チラシ80枚作成する。
- *クリスマスミサおよびパーティは幼稚園リズムホールで行う。ステージ上の祭壇にはお花のみ。
(幼子イエスの像などは置かない。)
 - ・ダルクさんに準備、片づけをお願いする。
 - ・深澤みどりさんの洗礼式。
 - ・24日14時より会場準備。下のお部屋も車いすの方のためにモニター・持ち帰り食品を準備する。
- *ご意見うかがいノートを、集会室黒板下のボックスに設置したので、ご意見ある方はご自由にお書きいただきたい。
- *お茶会を外で行うことにしてその状況報告。ミサに参加した方々が一杯飲んで話してお帰りになっている。外でやってよかったようだ。今後も続ける。

3. 教会墓地に関する進捗状況

- *10月11日の教会委員会臨時会の結果を受け、
 - ・江守さんから合同不動産霊園管理会社に対し10月29日簡易書留速達にて富士河口湖霊園墓地区画第7区2番48号5m²の「永代使用権放棄願」を送付。

- ・高山建設にて返還に伴う更地化工事 10月 27 日、28 日。和田さん立ち合い。
- ・十字架は小松さんを通して佐賀県の武雄教会に送る予定。

4. 典礼グループ

*葬儀のしおりについて

- ・目安としての謝礼金額については入れておくこととする。
- ・「家族の覚書き」については、それぞれの家族に任せた方が良いのではないか。との意見が多かった。

*七五三について

- ・事務チーム小林さんが数えと実年齢の子どもたちをピックアップした。
- ・数え年や 5 歳は男の子、3 歳、7 歳が女の子など日本の風習は外国の信徒にわかりにくい。
(ミサに与った子どもたち全員を祝福していただく)

*山梨地区共同宣教司牧委員会「自ら祈る力を育てる部門」の今年度の取り組みとして、小教区ごとに一人一人の祈りの経験などを分かち合い、その様子を 2026 年 3/15(日曜日)の委員会で報告し合う。富士吉田教会では、2/8(日)ミサ後に分かち合いを行う。

*12/7 ミサ後典礼委員会予定

5. 福祉グループ

*横浜教区福祉委員会より「セブ島地震被災者のための募金お願い」依頼について。目標金額(軽トラック)がたまつたら中止。それまで、ガザ地区人道支援募金は中断

*11月 30 日待降節第 1 主日より始まる「クリスマス献金」の寄付先:NPO 法人 Be Happy(上吉田)と富士五湖ダルクとする。

6. 広報グループ

*12月おとずれ印刷スケジュール 11月 23 日締め切り 11月 29 日(土)印刷

- ・巻頭文は千葉神父
- ・スキャナーで古いアルバム写真をデータ化(新井さん、小林さん)
- ・本棚に今ある本を整理して、アルバムは残す。二年間本棚の貸し出しを見てきたが、借りる方が殆どなく、少しずつ本を処分して行こうと思う。感謝と喜びの集いで出したらどうか。
- ・おとずれの方向性を検討する。News Letter 的にするかどうか？

7. 一粒会

*2027 年 11 月 11 日YCC文化会館で一粒会大会を開催。2026 年は 3 か月ごとに打合せ。2027 年は 1 か月ごとに行い、準備する。

8. 営繕グループ(和田)

*クリスマスの飾りつけについて

- ・感謝と喜びの集い後に飾り付けをする。
- ・クリスマスリース(聖堂の入り口ドア)佐々木さん用意済。ツリーは風除室に置く。
- ・高所の飾りつけはやめ、佐々木成子さんを中心に今までのイルミネーションの刷新を行いたい。
- ・ペンキ塗りはクリスマス迄に終了する予定。

9. その他

*来年度年間予定表(案)を事前にお渡しするので、12 月教会委員会で検討してほしい。

*次回教会委員会臨時会を 12 月 13 日(土)13 時から行う。墓地運営規定の作成を行う。

教会日誌（2025年10月16日～2025年11月15日）

【10月】

- 17日(金)軽井沢教会建設委員会、信徒館新築あるいはリフォーム事業参考のため来訪
19日(日)御聖堂にて、ミサ後口ザリオの祈り。山梨地区共同宣教司牧委員会 於:富士吉田教会/小さき花幼稚園リズムホール
25日(土)シスター滝口の成人のためのカトリック信仰講座 於:サレジアンシスターズ山中雪の聖母修道院。ウクライナ料理教室前日準備 おとずれ11月号の印刷・発送作業
26日(日)ウクライナ料理教室 vol.2 ヴァレニキ 開催。講師:ソフィヤ・ゾルスカさん、ゲスト:鈴木ティファニーさん、参加者:大人19人、こども9人。第1回「感謝と喜びの集い」打合せ。
28日(火)営繕グループ、教会墓地の合葬墓地部分の解体撤去整地工事立ち会い

【11月】

- 2日(日)教会墓地お墓参り
3日(月・祝)靈における会話ファシリテーター養成講座(第6回)於:藤沢教会(小林)
8日(土)広報グループミーティング、教会委員会
9日(日)「感謝と喜びの集い」準備について、有志話し合い。

お知らせ

◎セブ島地震募金

2025年9月30日フィリピン・セブ島で大きな地震が起き、また先日の台風25号・26号でも多くの方々が被災し、生活基盤を失いました。横浜教区福祉委員会では、教区内のフィリピン・セブ島出身司祭の被災地支援活動を応援するため、来春3月末まで緊急支援金を募ります。

集まりました支援金は主に現地での支援物資搬入のための軽トラック購入資金に充てられます。主日のミサの折に、聖堂入口付近に募金箱を置きますので、皆さまからのご支援を、お願ひいたします。ご寄付いただきました支援金は「カリタス・ジャパン横浜教区支部」に送ります。

(福祉グループ 和田一郎)

◎ガザ地区人道支援募金のご報告

上記セブ島地震募金を3月末まで行うにあたり、一時、ガザ地区人道支援募金活動を休止することといたしました。つきましては、本年6月より11月9日までにお預かりした献金24,029円全額カリタス・ジャパン宛て送金いたしました。セブ島地震募金が終わり次第、再び募金活動を始める予定であります。どうぞよろしくお願ひいたします。

(福祉グループ 和田一郎・財務チーム江守香代子)

こよみ

12月

日付	教会暦	行事内容等	日曜学校	掃除リーダー
12/7(日)	待降節 第2主日	宣教地召命促進の日献金	○	新井
12/13(土)		定例会・臨時会		
12/14(日)	待降節 第3主日	黙想会(牧山善彦神父)	終業式 赦しの秘跡	江守
12/21(日)	待降節 第4主日	聖歌隊練習	—	和田
12/24(水)	主の降誕夜半ミサ	幼稚園リズムホールにて ミサ 18:30 ミサ後パーティ		
12/25(木)	主の降誕ミサ	ミサ 10:00～ミサ後茶話会	—	
12/28(日)	聖家族		—	曾根

クリスマス献金:待降節第1主日より12/25まで

・御ミサは毎週日曜 9:30 開始です。変更ある場合のみ表に記載します。

イタリア語教室(月曜10時):1, 8, 15

1月予定

- ・1日(木) 神の母聖マリア ミサ 10:00 世界平和の日 新成人の祝福
 - ・4日(日) 主の公現 クリスマス飾り片付け
 - ・10日(土) 教会委員会
 - ・11日(日) 主の洗礼
 - ・18日(日) 年間第2主日
 - ・25日(日) 年間第3主日 世界こども助け合いの日(献金)

12月のミサ奉仕

日	先唱	第1朗読	第2朗読	香部屋
7	東海林 義夫	曾根 慈原	和田 一郎	江守 香代子
14	大野 隆	和田 一郎	曾根 美香	角 幸子
21	曾根 美香	ヴ ティ ホア	山田 恵子	曾根 美香
24	小林 恵美子	江守 香代子	東海林 義夫	中村 すみ子
25	江守 香代子	遠藤 伸子	菅原 るみ子	小林 恵美子
28	遠藤 伸子	和田 一郎	グエン ティ 力	江守 香代子